

第57回全国知的障害福祉関係職員研究大会
（第6分科会）

地域移行支援から見えてきたもの

地域生活支援事業所アシスト
施設長兼相談支援専門員
樋之口 亮

アシストグループ



GHアンビス(グループホーム)

洗濯のアシスト(コインランドリー)

アシスト訪問看護
ステーション

救急搬送アシスト九州

地域生活支援事業所 アシスト
(指定特定相談支援事業)
(地域移行・定着支援事業)
(地域活動支援センターⅠ型)



地域生活支援事業所アシスト

<事業内容>

地域活動支援センター I 型

指定特定相談支援事業・指定一般相談支援事業

<職員配置>

相談支援専門員 3名 常勤

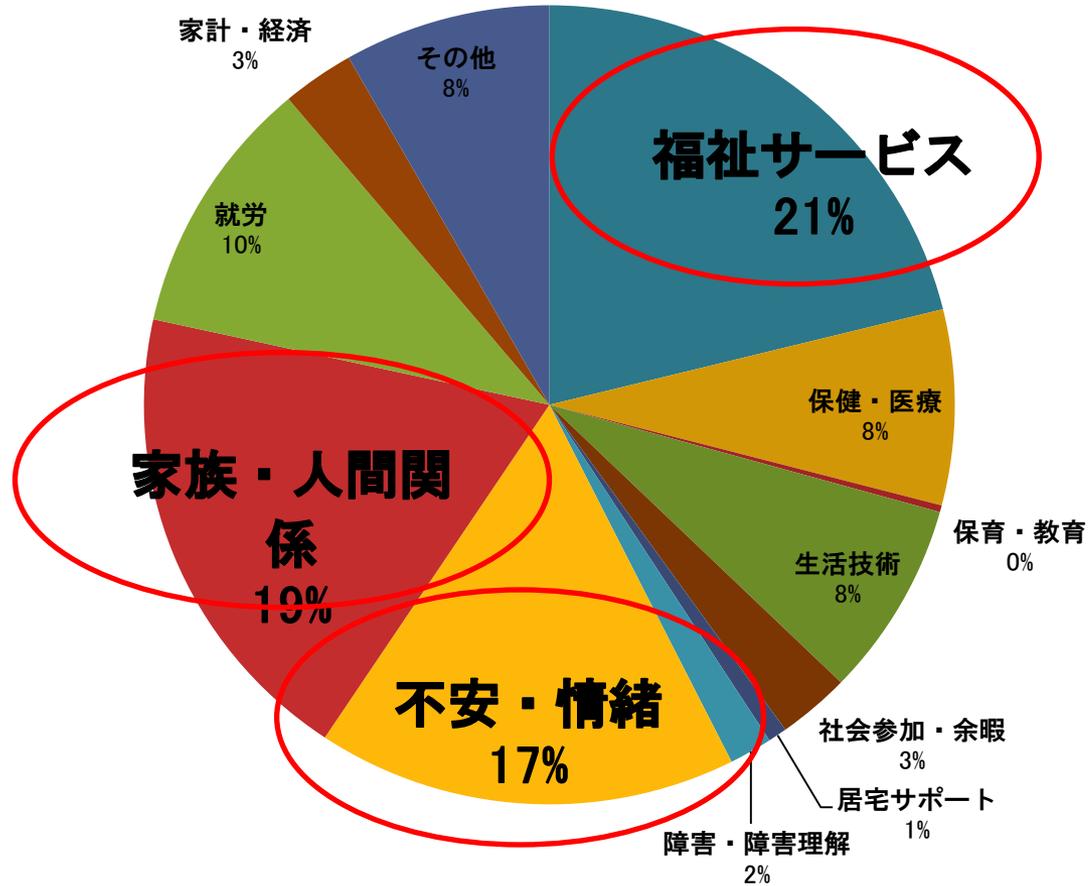
(精神保健福祉士)

相談支援員 3名 非常勤

(看護師・精神保健福祉士)



実績



さんまの焼き方って？

今日のヘルパー断っていい？
友人とどう付き合えば、

彼氏とケンカした
(泣)

人の目が怖い

年金が減るってホント？ タレントになりたい

手にブツブツが出来ている

しめじが腐っているかがわからない

退院したいけど自分にやっていけるだろう
か、

地域移行支援事業とは

- 障害者支援施設等に入所している方または精神科病院に入院している方などに対して、住居の確保などの地域生活に移行するための相談や必要な支援を行う。
入所・入院中から新しい生活の準備等の支援を行うことで、障害のある方の地域生活への円滑な移行を目指す。

これまでの退院支援

- 地域生活のイメージが上手く築きにくい。
- 利用者はこれまでの環境と大きく変わることによって症状が不安定になることがある。
- 入院から退院までの支援を行い、支援内容や本人の意向を地域援助事業者に上手く引き継がなければならない。

退院支援

退院すると「場所」が変わる。
頼りにできる「人」が変わる。
自分でする「こと」が変わる。



ご入院中

退院後

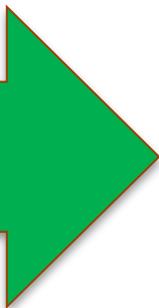
地域移行支援事業を 使った退院支援



原則6ヶ月

ご入院中

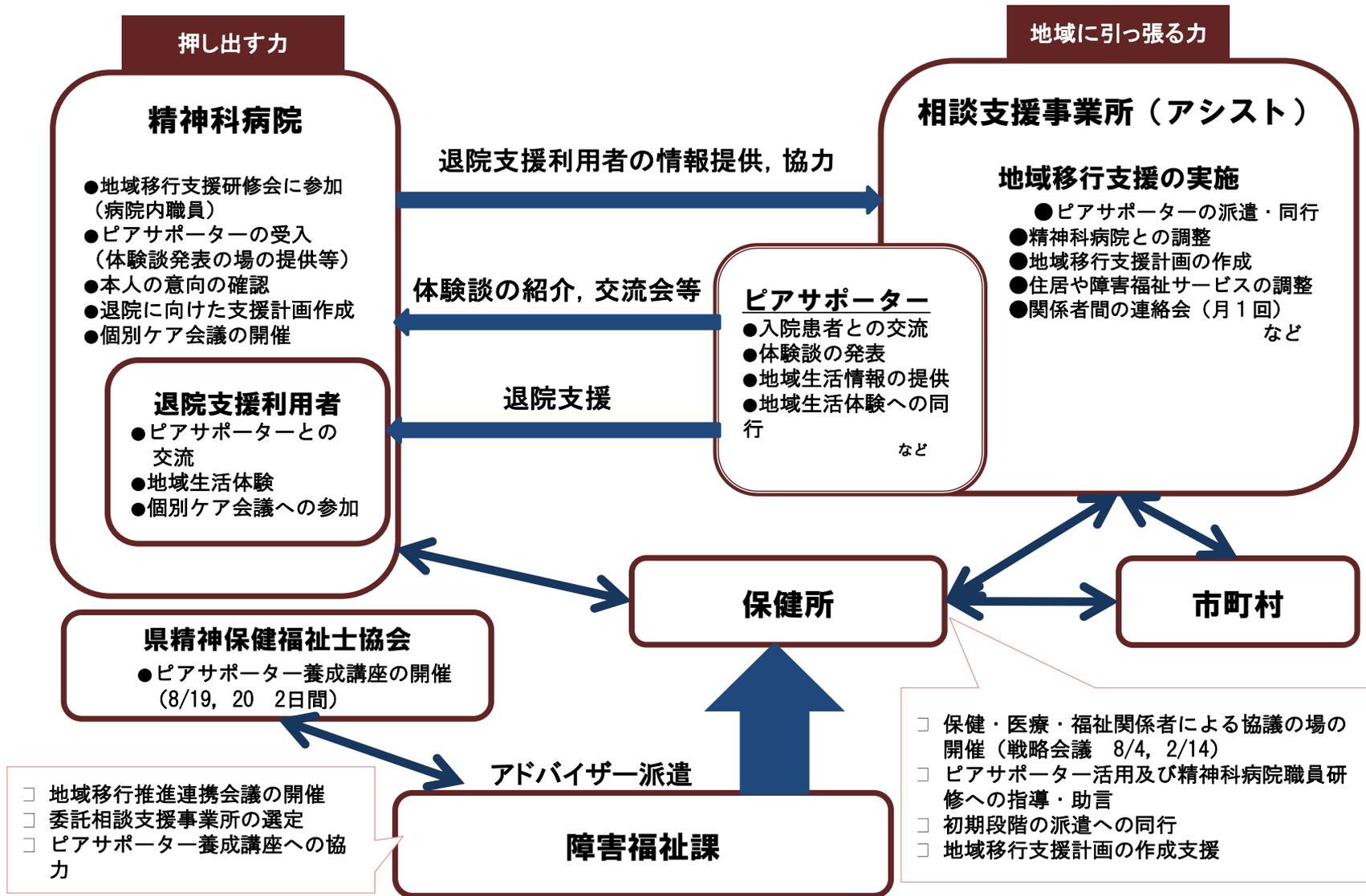
地域移行支援事業



地域移行支援が目指すメリット

- グループホームやB型の体験をし、院外へ外出（地域生活で使う物品の準備や公共交通機関の利用）で地域生活のイメージ作りをする。
- 利用者が主体的で十分な準備をすることで新しい環境で不安感や孤独感を感じないよう支援する。
- 地域相談支援が病院内に入ることによって、課題を共有して支援を行うことが出来る。

長期入院精神障害者の地域移行推進事業（平成29年度）



質問・疑問 にお応えします!

Q 地域移行って何ですか?

- a** 病院や施設で入所している方が、そこを出て、いろいろな人に手伝ってもらいながら、地域のグループホームで他の人と暮らしたり、部屋を借りて一人で暮らしたりすることです。食事の準備や入浴を手伝うヘルパーさんに来てもらったり、困ったことがあったら頼むところもあります。



Q 街で暮らしてみたいけど不安です

- a** 一緒に考え相談できる相談員がいます。街で暮らしている人に来て話を聞く機会もあります。一人で悩まなくて大丈夫です。住む場所を探したり、自治の体験をします。街で暮らすときにかような作業所を体験したり、買い物するところを見に行ったりできます。

Q 相談したり、体験したりするのにお金はかかるの?

- a** 地域移行支援事業の利用を申請すると、外出や自治での交通費・食事のお金以外はかかりません。



Q 体験したり、見学したりする地域移行にはどれくらいの期間がかかるの?

- a** あなたのペースに合わせて取り組んでいきます。半年から1年ぐらいかけて、場合によっては更に延長したり、途中でやめたり、いったん中断することも可能です。あなたの進捗にそって、一緒に準備していきます。家族の方や施設の職員さんとも相談しながらすすめていきます。

Q どんな人がサポートしてくれるの?

- a** 地域での暮らしについて一緒に考えてくれる相談支援事業所の相談員やピアサポーター（当事者スタッフ）があなたの生活づくりをサポートします。



Q 私には無理なんじゃない?

- a** 不安が沢山あっても、サポートの体制があれば街で暮らすことができます。介助や日中活動・働く場、グループホームや住まい、医療やお金の管理など、さまざまなサービスや支援をくみあわせて、安心できる暮らしをサポートします。不安なことは、なんでも相談員やピアサポーター（当事者スタッフ）に相談してください。あなたの気持ちを大事にしなが、無理のない計画と一緒に考えて、いろいろな体験してみましょう。

詳しくは病院の相談員の方、保健所や市町村までお問い合わせください。

- 給良・伊佐地域振興局 地域保健福祉課 / TEL0995-44-7964
- 給良市役所 長寿・障害福祉課 / TEL0995-66-3111
- 熊本市役所 長寿・障害福祉課 / TEL0995-45-5111
- 給良郡湧水町役場 福祉課 / TEL0995-74-3111
- 伊佐市役所 障がい支援係 / TEL0995-23-1330

制作・発行：地域生活支援相談事業所アリスト
 ボリーフレットは、鹿児島県「施設入居者に対する地域移行支援事業」で作成したものです。

入院されている患者様へ

地域移行支援事業・地域定着支援事業のご紹介



[地域移行支援事業] 入院中から退院までのお手伝い
[地域定着支援事業] 地域で暮らし続けるお手伝い



街で暮らす準備！街で暮らしてからの支援！いたします。

【地域移行支援事業】入院中から退院までのお手伝い

地域の相談員が、あなたの話を聴いて退院を目指します。
体験や外出を繰り返し、不安に感じていることを解決していきます。



【地域定着支援事業】地域で暮らし続けるお手伝い

相談員が伺います

新しい生活で不安なことやどうしたらいいかわからないことを相談員が訪問して、ひとつずつ解決していきます。緊急な時にもお家に伺います。

街の中の支援サービス

地域の中にあるいろいろなサービスを使って生活できます。もちろん相談員も一緒に考え、相談していきます。

- 医療に関すること**
 - 病院
 - 訪問看護
 - デイケア
- 活動に関すること**
 - 地域活動支援センター
 - ボランティア活動
- お金のこと**
 - 障がい年金
 - 生活保護
 - 金銭管理サービス
- 就職に関すること**
 - 作業所
 - 就業・生活支援センター
 - ハローワーク
- 住まいに関すること**
 - 消費者センター
 - 各スポーツ施設・スポーツ教室
 - グループホーム・アパート
 - ホームヘルパー

安心して暮らせるようにしましょうね！

地域での生活を阻むもの

「保証人・身元引受人がない」

「経済的にやっていけない」

「家がない」

「不安（漠然）」

指定一般相談支援事業所の十分な支援を行うため

利用者自身が主体的な意思・行動で準備が出来る支援環境を作る必要がある

ピアサポーターの力を借りる

地域移行支援でのピアサポーター

- リカバリー志向 . . .

同じような体験があり、それを基に関わりを持つことで、当事者の道しるべとなる。

体験したからこそその感覚、実感、プロセス、共感、

言葉の深み、重み

精神疾患を持ちながらも生活する上で希望を見出すための支援が出来る。

リカバリーのプロセスで希望や動機づけを獲得し、

自主性・自立性を高める

相談支援事業所のスタンス

- 病院の行う退院支援を一緒に行っていくイメージ。
 - エンパワメント支援、自己決定支援
 - ・ ・ ・ ・ 専門職としての限界
 - 希望や夢、動機づけ自分らしい生活を主軸に支援の模索をし続ける。
- 利用者 と 支援者 と の 関係性 で 最も 大切 に なる

当事業所のH29年7月までの提供実績

地域移行支援 3件

地域定着支援 5件

地域移行支援は書類は多いし、
利用者がいない。
地域移行支援をしてくれと言われても・・・。



この事業を始めた動機

- 地域移行支援事業の概要や「なぜ進まないのか？」についての研修や会議はあるものの、地域移行支援の事例が少なく、具体的な議論に至ることがなかった。
- 地域に“ピアサポーター”という存在がおらず、養成や効果について実感する機会がなかった。

事業を始めてから

平成29年

ピアサポーター訓練生4名を採用。体験発表を見据えエリカバリーストーリーの作成。
ポスター・パンフレット作成。
病院・福祉施設等で体験発表。

平成30年

個別支援開始。5名の退院。
精神科病院での交流会実施。

平成31年

個別支援実施中。地域の関係事業所向け講演。

ピアサポーターの効果

①入院患者等

自分の意思で夢を持って前向きに生きることが大切だと私も思いました。

ピアサポーターがもっと多くても良かったのではと思いました。

話を聞いてみて相談することが重要なんだとわかった。自分も相談しやすい人を見つけたと思う。

体験談とかちゃんと働いて生活して幸せそうだった。今の生活も悪くないけどいろいろ考えさせられた。

話はわかった。ちょっと使ってみてもいいかなと思った。

パンフレットもあり、わかりやすかった。質問にも答えてくれたし、地域移行支援事業を使ってみたいと思った。

②病院スタッフ

是非病棟でも話をしてほしいと思った。

本人自身が退院する気持ちが大事であることを1番に考え支援していく必要があると思いました。

前向きに生活されていることを知ることができ、入院中の患者さんにも聞いてもらって退院への取組につなげられたらと感じた。

ピアサポーターがどんどん病院に話に来てくれたらいい。

退院を阻害するもの

住まい

保証人

お金

不安

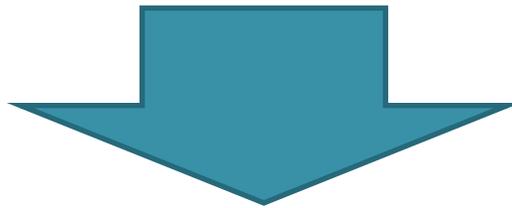
Etc...

課題が挙がってくることで地域も変わる

市における障害福祉サービス手続きの簡素化
養護老人ホーム入所判定会での取り扱い変更
ピアサポーター導入による当事者意識の変容
精神科病院内との交流が増加
関係者の地域で支える意識の高まり

ソーシャルワークの担い手として

精神科病院、相談支援事業所、市町村、保健所の協働にてケースを積み上げることで**地域の抱える課題**も見えてくる。



個別の支援と同時並行的に地域自立支援協議会への報告を行い、解決に向けた具体的な取り組みが必要。

豊かな生活をおくるということ

希望

トラブル

課題

楽しみ

本人が行動しないといけないこと、直視しないといけない現実があっても悩みながらひとつずつ選択していく。